

博多の2つの心

「よかろうもん」・・・よく使う言葉である。

「いかんとや？よかろうもん」と自分の考えややりたいことに異を唱える人に対して使ったり、「大丈夫くさ。よかろうもん」と周りの心配を振り払うような時に使ったりする。そのほかにもいろんな場面でこの言葉は使われる。この「よかろうもん」という言葉は、博多の気質というか心の根底にある考え方みたいなものを表しているように思えてならない。

昔、タレントのタモリが話していたことがある。なぜ、福岡からは多くの芸能人が出ているのか。その答えとして、福岡の人間は「ひとつ東京で旗あげるか」と軽い気持ちで東京へ行く。まわりから「やめときやい、どうせだめて」と言われても、そんなの気にせずに東京へ行く。結果、言われたとおり失敗して、帰ってくる。帰ってくれば、「ほら、やけん言うたろうが」と言われ、しかし、「ま、よかたい」と残念会みたいなことで飲んだりする。そうこうしていると、「俺、また行ってくるけん」と東京へ行く。まわりは「また行くことや。ま、よかたい。まただめんときは帰ってきやい」と送り出す。

おそらく、反対する声もあるだろう。しかしそんな時は「俺が決めたっちゃけん、よかろうもん」と言い、横から「そうたい、大丈夫くさ、よかろうもん」と送り出す。

先々の失敗を細かく考えず、とにかくやってみよう、本人がその気ならそうさせてやろう、失敗したらまたその時に考えればいいうらう、そんな大らかで前向きな、逆に言えばいい加減な、けど面白そうだからやろうという博多の気質があるように思う。

逆に、こだわるところには徹底してこだわるし、譲れないものは絶対に譲らないという気骨もある。その代表的なものは山笠ではないだろうか。「山笠は祭りやない、神事ばい」と言う人がいた。単なる祭りじゃないから観光客の客寄せのためにやっているのではないというのだ。

確かに、山笠は7月15日早朝の追い山だけでなく、それまでにもあまり表にはでてこない多くの行事がある。前の年の秋くらいから始まっているとも聞く。追い山にしても観光客に合わせるならば、あんな早朝にやる必要はない。もっと遅くにやってもいいはず。もっと見学しやすいようにもできるはず。しかし、そうはしない。それは絶対に譲らない。そんな気骨がある。

この「よかろうもん」というアバウトな気質と、山笠に代表される譲れない気骨。博多の街はこの2つの心で出来ているのかもしれない。そして、この2つの心はこれから時代や街が変わろうとも引き継いでいかななくてはならないものだと思う。これがなくなったら、博多ではなくなるような気がする。